

昭和60年 茨城県鉱工業指数の概況

I 全国の動向

1. 生産

昭和60年の鉱工業生産は、前年比4.6%、出荷は、同3.6%の上昇となり、59年の生産同11.1%、出荷同8.7%の上昇に比べ大幅に増勢が鈍化した。

鉱工業生産は、58年以来、エレクトロニクスを中心とした、技術革新の波のなかで、輸出の拡大にけん引され電気機械工業を中心に回復、拡大を遂げてきたが、60年年央以降出荷が横ばうなか生産が弱含みで推移し、在庫も緩やかに低下してきており、生産活動は調整局面に入ったものと思われる。

60年後半生産活動が弱含みとなったのは、

- (1) 輸出の増勢がなくなったことに加え、国内需要も緩やかな拡大にとどまったこと
- (2) 進展する技術革新の潮流のなかで、急速に拡大してきた半導体集積回路等のエレクトロ

ニクス製品の生産活動が需給のインバランスなどから転機を迎えたこと

- (3) こうした需要の鈍化等に伴う在庫の高まりを背景に電気機械工業、鉄鋼業等で、在庫調整の動きがみられたこと、などによるものである。

鉱工業生産の先行きについては、輸出が今後弱含みで推移し、国内最終需要も緩やかな上昇にとどまるものと考えられることに加え、在庫調整が引き続き進展するものと見込まれることなどから当面調整局面が続くものと思われる。

60年の生産動向をみると、鉱工業全体では、前年比4.6%の上昇となったが、59年の同11.1%から急速に伸び幅は低下した。四半期別の推移をみると1～3月期前期比△0.7%、4～6月期同2.7%、7～9月期同△0.1%、10～12月期同△0.7%と年央以降緩やかな低下傾向で推移した。四半期ベースで2期連続して生産の伸びがマイナスを示したのは57年上期以来のことであり、

58年1～3月期以降回復、拡大過程をたどった生産活動も11期目にして調整局面を迎えることとなった。

業種別にみると、生産の下方転換は、これまでの生産拡大を主導してきた加工型産業にとりわけ強くみられた。60年の加工型産業総合は前年比9.0%と59年の伸び(同20.0%)を大幅に下回った。特に年後半は、7～9月期前期比△0.5%、10～12月期同△0.1%と低下し鉱工業生産低下の主因となった。加工型産業の中では、58年・59年の生産拡大をけん引してきた電気機械工業の増勢鈍化

表一 1 鉱工業指数の推移

(55年=100, 原指数)

		56年	57年	58年	59年	60年
茨城県	生産 対前年増減率(%)	100.3 0.3	100.3 0.0	105.1 4.8	114.4 8.8	110.8 △3.2
	出荷 対前年増減率(%)	102.0 2.0	104.2 2.2	110.2 5.8	119.0 8.0	114.9 △3.5
	在庫 対前年増減率(%)	101.2 △4.0	99.5 △1.7	90.1 △9.5	112.4 24.8	110.6 △1.6
全国	生産 対前年増減率(%)	101.0 1.0	101.3 0.3	104.9 3.6	116.5 11.1	121.9 4.6
	出荷 対前年増減率(%)	100.6 0.6	99.8 △0.8	103.4 3.5	112.4 8.7	116.5 3.6
	在庫 対前年増減率(%)	99.4 △3.6	97.9 △1.5	92.8 △5.2	101.5 9.3	107.0 5.4

が著しく、年前半は昨年までの増勢を持続したものの年央以降の半導体集積回路の在庫調整の進展、輸出関連品目の減少等から大幅に低下したため前年比11.3%と過去2年を大きく下回る伸びとなった。(58年同19.6%、59年同29.2%)。また、一般機械工業、輸送機械工業もそれぞれ前年比7.3%(59年同13.2%)、同3.6%(59年同10.0%)と伸び幅を大幅に減少させた。加工型産業の中では唯一精密機械工業が、カメラの新製品の登場により同16.9%(59年同16.4%)と59年に引き続き好調な伸びをみせた。

一方、素材型産業は59年末期以降総じて高水準ながら横ばいで推移し、素材型産業総合は前年比1.6%(59年同7.4%)と低い伸びにとどまった。素材型産業の中では、化学工業が写真感光材料、医薬品等のファインケミカル関連品目の堅調な伸びに支えられ同3.3%と高水準の生産を維持したほ

図-1 鉱工業指数の推移

図-1-(1) 生産

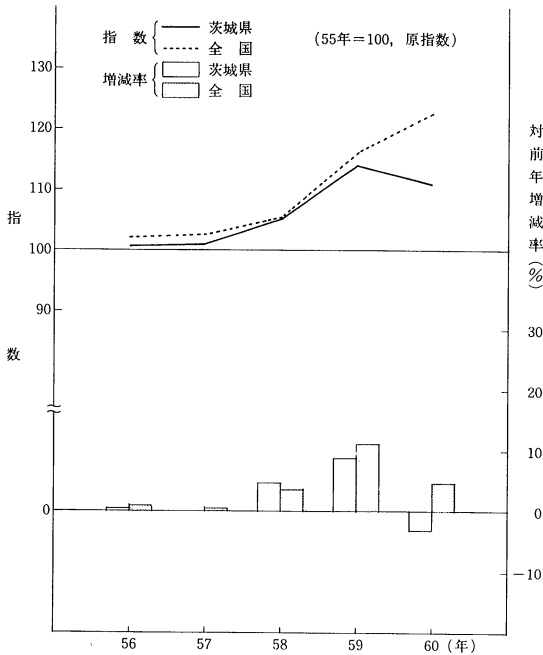


図-1-(2) 出荷

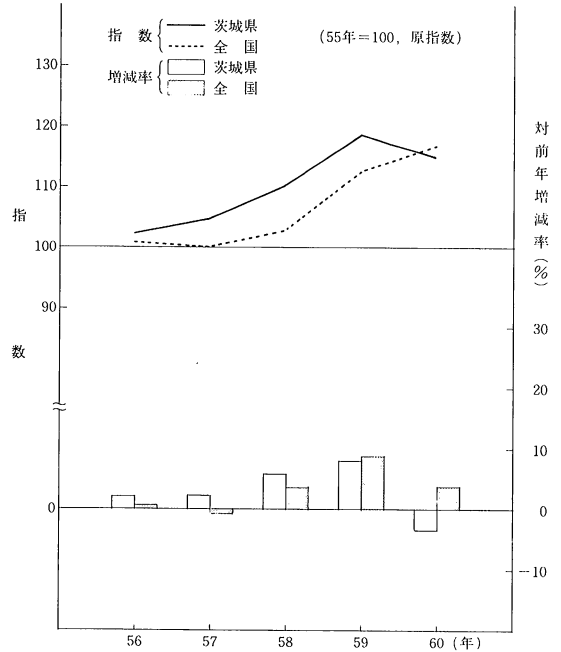
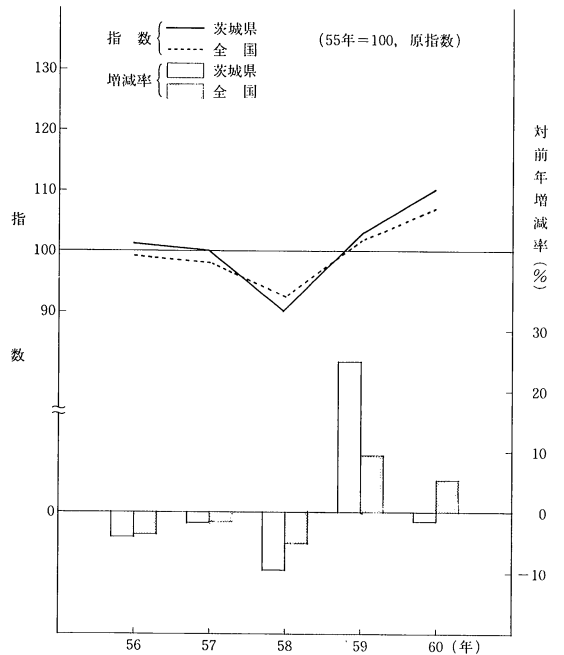


図-1-(3) 在庫



■ 調査から

か、パルプ・紙・紙加工品工業が同4.4%と57年以來4年連続の上昇となった。鉄鋼業は、年央以降輸出の低下に加え国内在庫調整の進展から同2.1%と低い伸びとなった。非鉄金属工業は、エレクトロニクス向けの電子材料等加工品が4年ぶりに低下したことなどから、弱含みに推移した。

2. 出 荷

昭和60年の鋳工業出荷は前年比3.6%上昇した。前年同様、電気機械工業を中心とした機械工業の伸びが高く、前年比8.0%上昇した。

3. 在 庫

昭和60年の鋳工業生産者製品在庫は、前年末比5.4%の上昇であった。

II 本県の動向

60年の本県における鋳工業指数をみると、生産は110.8で前年比△3.2%の低下、出荷は114.9で同△3.5%の低下、在庫は110.6で同△1.6%の低

下であった。

年間の動きを四半期別にみると、生産は1～3月期は前期比で△5.1%の低下、4～6月期は1.4%の上昇、7～9月期は△2.9%の低下、10～12月期は△2.8%の低下となった。出荷は、1～3月期は前期比で△3.1%の低下、4～6月期は△0.3%の低下、7～9月期は△2.5%の低下、10～12月期は△3.6%の低下となった。在庫は、1～3月期は前期比で△0.8%の低下、4～6月期は4.0%の上昇、7～9月期は△4.4%の低下、10～12月期は△0.4%の低下となった。

前年同期比でみると、生産は1～3月期は0.5%の上昇、4～6月期は△1.1%の低下、7～9月期は△3.0%の低下、10～12月期は△8.7%の低下となった。出荷は、1～3月期は1.3%の上昇、4～6月期は△2.4%の低下、7～9月期は△3.5%の低下、10～12月期は△8.8%の低下となった。在庫は、1～3月期は9.2%の上昇、4～6月期

表一 鋳工業指数の推移（全国）

(55年=100, 季調済)

	58年	59年	60年	58年				59年				60年			
				1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
生産	104.9	116.5	121.9	100.3	103.6	107.4	108.9	112.4	115.5	117.4	120.6	119.8	123.0	122.9	122.0
前期(年)比	3.6	11.1	4.6	1.9	3.3	3.7	1.3	3.1	2.8	1.6	2.7	△0.7	2.7	△0.1	△0.7
前年同期比	—	—	—	△1.5	4.0	6.0	10.6	11.1	12.0	10.6	10.7	6.4	6.5	4.6	1.2
出荷	103.4	112.4	116.5	105.3	108.3	112.2	114.8	109.5	111.4	112.7	115.8	114.4	117.1	117.1	117.5
前期(年)比	3.5	8.7	3.6	2.3	2.9	3.6	2.3	2.7	1.7	1.2	2.8	△1.2	2.4	0.0	0.3
前年同期比	—	—	—	△0.2	5.0	6.5	11.6	9.7	9.4	7.5	8.4	4.2	5.1	4.1	1.4
在庫	92.8	101.5	107.0	98.3	98.7	98.1	90.9	96.0	99.4	100.5	103.2	106.4	109.5	108.7	108.7
前期(年)末比	△5.2	9.4	5.4	△2.3	0.4	△0.6	△7.4	1.9	3.5	1.1	2.7	3.1	2.9	△0.7	0.0

は7.6%の上昇、7～9月期は0.6%の上昇、10～12月期は△1.6%の低下となり、58年10～12月期以来の低下となった。

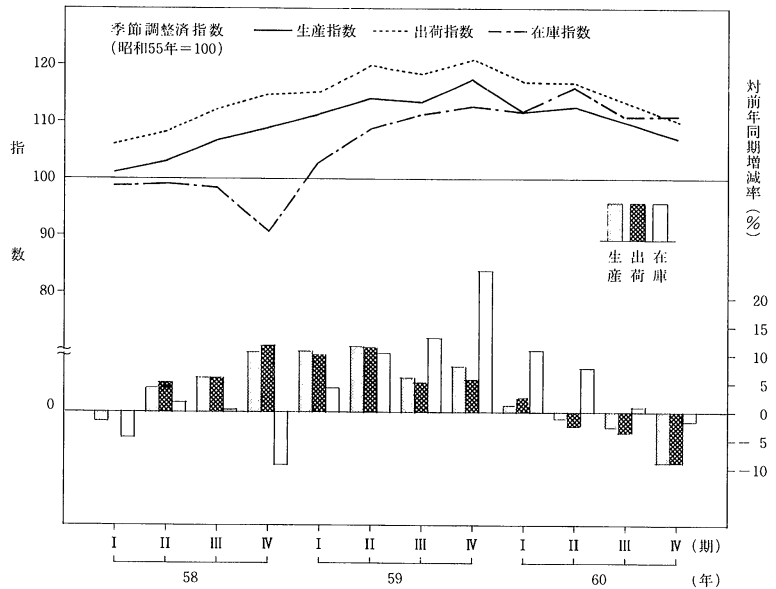
また、業種別生産指数をみると、ゴム製品工業が、前年比74.6%増と大きく上昇したのをはじめ、パルプ・紙・紙加工品工業、精密機械工業が2けた台の上昇であった。一方、低下したのは、金属製品工業、非鉄金属工業、機械工業、石油・石炭製品工業等であった。

特に機械工業については、ウエイトの大きい電気機械工業関連のうち、設備投資関係の産業用電気機械及び輸出関係のビデオ・テレビ等が大幅に低下したため、他の業種が全部上昇して

いるにもかかわらず、前年比△7.4%の低下となった。

本県と全国との生産指数の動きを比較してみる

図一 2 鉱工業指数の四半期推移



表一 3 鉱工業指数の四半期推移

(55年=100, 季調済)

		58 年				59 年				60 年			
		1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
生産	季節調整済指数	100.3	103.2	107.3	109.4	110.9	115.1	113.5	118.1	112.1	113.7	110.4	107.3
	対前期増減率(%)	1.3	2.9	3.9	2.0	1.4	3.7	△1.3	4.0	△5.1	1.4	△2.9	△2.8
	対前年同期増減率(%)	△1.7	4.2	6.0	10.5	10.6	11.5	5.9	7.9	1.1	△1.2	△2.7	△9.1
出荷	季節調整済指数	104.3	108.4	112.9	115.0	114.8	120.7	118.8	121.5	117.7	117.4	114.5	110.4
	対前期増減率(%)	1.3	3.9	4.2	1.9	△0.1	5.1	△1.6	2.3	△3.1	△0.3	△2.5	△3.6
	対前年同期増減率(%)	0.0	5.2	6.0	11.6	10.1	11.4	5.2	5.6	2.5	△2.7	△3.6	△9.1
在庫	季節調整済指数	97.4	98.5	98.2	90.7	101.4	108.6	110.9	113.3	112.4	116.9	111.8	111.4
	対前期増減率(%)	△2.7	1.1	△0.3	△7.6	11.7	7.1	2.1	2.2	△0.8	4.0	△4.4	△0.4
	対前年同期増減率(%)	△4.5	1.6	0.2	△9.3	4.1	10.3	12.9	24.8	10.8	7.6	0.8	△1.7

調査から

表一４ 業種別対前年増減率

(原指数, 増減率, 単位: %)

業 種	生 産		出 荷		在 庫	
	59 年	60 年	59 年	60 年	59 年	60 年
鋁 工 業	8.9	△ 3.2	8.0	△ 3.5	24.8	△ 1.6
鋁 業	△ 4.7	△ 2.0	△ 7.4	0.9	4.7	△25.8
製 造 工 業	8.9	△ 3.2	8.0	△ 3.4	24.8	△ 1.5
鉄 鋼 業	7.0	3.8	8.6	2.1	2.3	11.8
非 鉄 金 属 工 業	△ 0.6	△16.1	3.1	△ 8.8	13.2	△21.2
金 属 製 品 工 業	2.6	△20.1	0.6	△35.6	△ 5.4	△ 7.4
機 械 工 業	8.9	△ 7.4	9.4	△ 8.5	43.7	△ 4.8
一 般 機 械 工 業	△ 6.6	7.1	△ 7.7	11.1	41.4	△10.7
電 気 機 械 工 業	19.3	△15.9	22.2	△20.0	54.9	3.2
輸 送 機 械 工 業	△ 5.6	0.9	△ 5.0	0.3	△ 0.7	△16.3
精 密 機 械 工 業	5.5	10.2	7.2	10.1	△ 3.9	10.4
窯業・土石製品工業	32.7	9.4	42.1	12.9	49.1	25.5
化 学 工 業	16.8	△ 2.4	12.6	2.3	23.2	△20.5
石油・石炭製品工業	7.6	△ 7.4	6.0	△ 5.0	48.9	△ 3.0
パルプ・紙・紙加工品工業	6.2	10.6	7.8	7.3	12.3	49.0
織 維 工 業	△ 3.6	0.7	△ 7.6	△ 1.4	29.0	18.6
木 材・木 製 品 工 業	△ 6.9	△ 4.5	△ 7.5	△ 4.3	△ 2.4	4.7
食 料 品・た ば こ 工 業	5.0	△ 2.8	0.0	0.8	38.2	△27.8
そ の 他 工 業	7.8	15.2	4.6	15.1	14.1	5.1
ゴ ム 製 品 工 業	12.4	74.6	10.2	67.7	△21.4	36.1
皮 革 製 品 工 業	1.0	△13.1	△ 1.8	△11.9	△43.5	15.3
プ ラ ス チ ッ ク 製 品 工 業	6.8	5.6	4.3	8.6	19.0	3.7
そ の 他 製 品 工 業	9.3	2.9	2.1	4.4	20.4	0.3

と、本県では、ウェイトの大きい機械工業が低下したため前年比 $\Delta 3.2\%$ の低下であったのに対し、全国では60年前半は6%台の伸びであったが、10月以降は円高の影響を受けて1%台に増勢鈍化をし、年平均では同 4.6% の上昇であった。

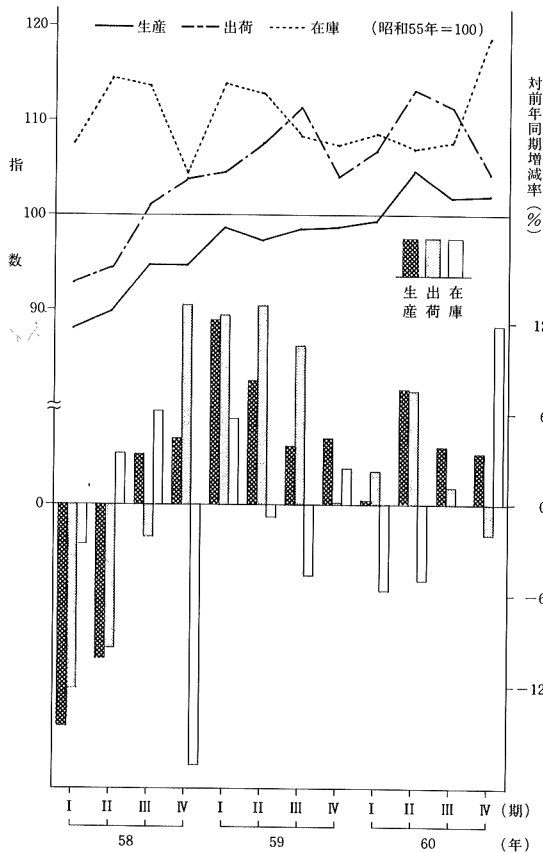
III 主要業種の概要

1. 鉄鋼業

60年の鉄鋼業の生産は102.0で前年比 3.8% の上昇となった。出荷については、108.9で同 2.1% の上昇、在庫は116.2で同 11.8% の上昇となった。

図-3 主要業種の四半期推移

図-3-(1) 鉄鋼業

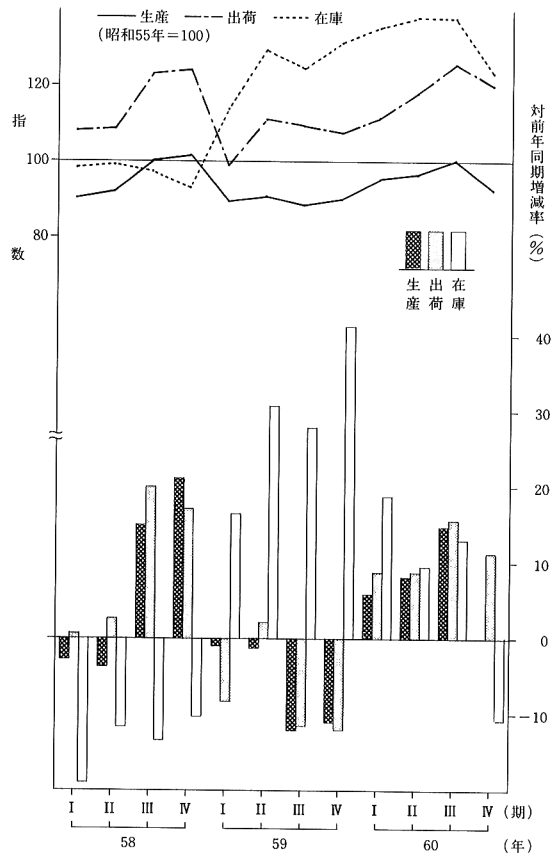


生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期は 0.6% の上昇、4～6月期は 5.4% の上昇、7～9月期は $\Delta 2.7\%$ の低下、10～12月期は 0.2% の上昇となった。前年同期比では、各期とも前年より上昇した。品目別にみると、鋼矢板、小型棒鋼、特殊鋼熱間圧延鋼材等が上昇し、フェロアロイ、H型鋼等が低下した。

2. 一般機械工業

60年の一般機械工業の生産は、96.1で前年比 7.1% の上昇、出荷は、118.7で同 11.1% の上昇、在庫は127.6で同 $\Delta 10.7\%$ の低下となった。

図-3-(2) 一般機械工業



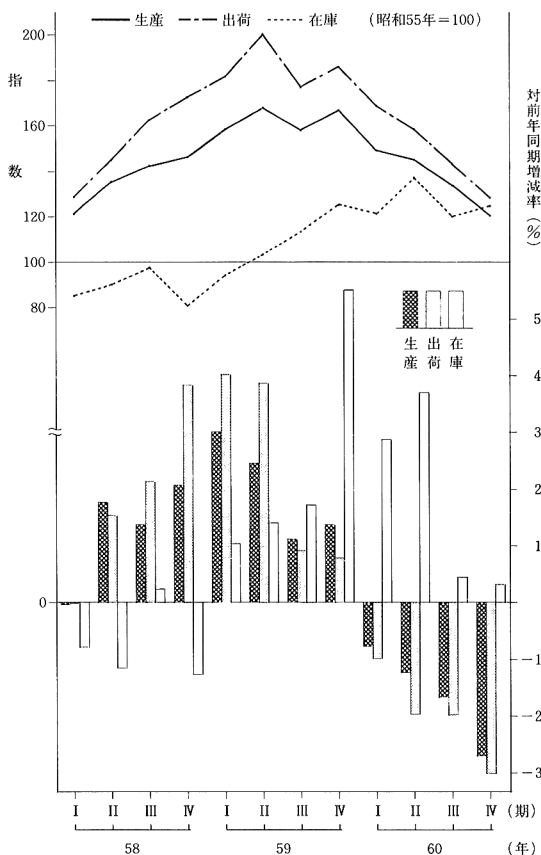
■ 調査から

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期は5.9%の上昇、4～6月期は1.2%の上昇、7～9月期は4.0%の上昇、10～12月期は△7.8%の低下となった。前年同期比では、各期とも前年より上昇したが、特に、7～9月期については、10%台の上昇となった。品目別にみると、印刷機械、油圧バルブ、圧延機械等が上昇し、電卓(記録式)、タイプライター等が低下した。

3. 電気機械工業

60年の電気機械工業の生産は、137.0で前年比△15.9%の低下、出荷は、149.2で同△20.0%の低下、在庫は120.5で同3.2%の上昇となった。

図-3-3(3) 電気機械工業



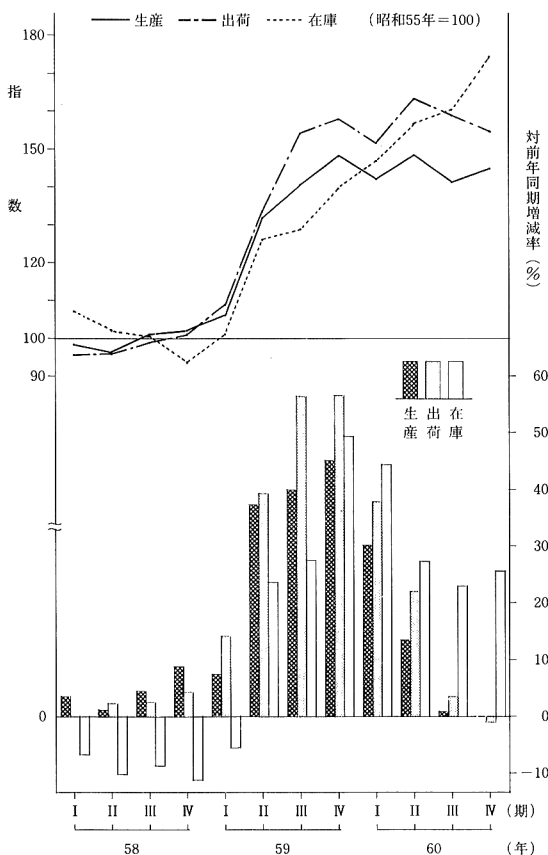
生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期は△10.3%の低下、4～6月期は△2.9%の低下、7～9月期は△7.8%の低下、10～12月期は△10.0%の低下となった。前年同期比では、各期ともそれぞれ低下したが、特に、10～12月期においては、△27.0%と大幅な低下となった。

品目別にみると、一般用白熱灯器具、産業用プリント配線板、電子顕微鏡等が上昇し、交流発電機、特殊用途変圧器、シリコン整流器等が低下した。

4. 窯業・土石製品工業

60年の窯業・土石製品工業の生産は、144.1で前年比9.4%の上昇、出荷は、156.9で同12.9%の

図-3-3(4) 窯業・土石製品工業



上昇、在庫は170.5で同25.5%の上昇となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期は△3.9%の低下、4～6月期は4.4%の上昇、7～9月期は△4.8%の低下、10～12月期は2.6%の上昇となった。前年同期比では、1～3月期、4～6月期、7～9月期はそれぞれ上昇し、特に、1～3月期においては、30%台の大幅な上昇となった。品目別にみると、ガラス製品、石綿スレート、遠心力鉄筋Cポール等が上昇し、気泡C製品、特殊炭素製品、生石灰等が低下した。

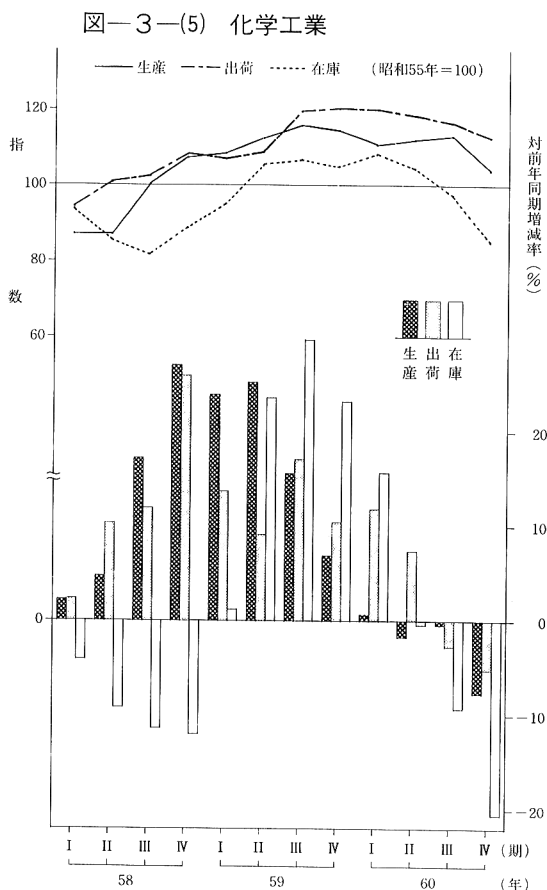
5. 化学工業

60年の化学工業の生産は、109.9で前年比△2.4

%の低下、出荷は、116.8で同2.3%の上昇、在庫は80.9で同△20.5%の低下となった。

生産の年間の動きを前期比で見ると、1～3月期は△3.4%の低下、4～6月期は1.2%の上昇、7～9月期は0.9%の上昇、10～12月期は△7.9%の低下となった。前年同期比では、1～3月期を除き低下した。品目別にみると、酸素、窒素、酸化プロピレン等が上昇し、アンモニア、尿素、顔料、石けん、ポリプロピレングリコール等が低下した。

(統計課・企画分析グループ)



第28回茨城県統計大会のご案内

本年度の茨城県統計大会は、来たる10月17日(金)に水戸市民会館において、開催することになりましたのでお知らせします。

〈第28回茨城県統計大会の日程〉

○期日 昭和61年10月17日(金)

○場所 水戸市民会館

○大会式次第

1. 受付開始 午前9時30分
2. 開 会 午前10時30分
3. あいさつ 茨城県知事
4. 表 彰 式
 - (1) 茨城県知事表彰
 - (2) 茨城県統計協会総裁表彰
 - (3) 各省庁大臣表彰伝達
 - (4) 全国統計協会連合会会長表彰伝達
 - (5) 第37回茨城県統計グラフコンクール入賞者表彰
5. 祝 辞
6. 受賞者代表決意表明及び受賞の喜び
7. 宣 言
8. 閉 会
9. アトラクション
10. 終 了 午後1時

(統計課・統計指導グループ)